

## 平成28年度第2回南部地域政策総合会議 会議録 概要

### 1 開催日時

平成29年2月27日（月）午後2時から午後4時30分

### 2 会場

徳島県南部総合県民局 阿南庁舎 大会議室

### 3 出席者

#### (1) 総合会議委員 14名（6名欠席）

##### ① 地域住民代表委員 13名

青木委員 石本委員 尾崎委員 黒川委員 小林委員 酒井委員 殿谷委員 橋本委員  
濱崎委員 林委員 平井委員 平岡委員 町田委員

##### ② 県委員 1名

小泉南部総合県民局長

#### (2) 管内市町長 5名

岩浅阿南市長 坂口那賀町長 福井牟岐町長 影治美波町長 前田海陽町長

### 4 会議次第

#### (1) 開会

#### (2) 議事

①平成29年度の「徳島県南部圏域振興計画」の取組みについて

②「徳島県南部圏域振興計画」及び「南部圏域課題解決プラン」の変更案について

③その他

#### (3) 意見交換

#### (4) 閉会

### 5 配付資料

- ・ 徳島県南部地域政策総合会議設置要綱
- ・ 徳島県南部地域政策総合会議委員名簿
- ・ 平成28年度第2回徳島県南部地域政策総合会議配席図
- ・ 資料 1 平成29年度の「徳島県南部圏域振興計画」の取組み
- ・ 資料 2 徳島県南部圏域振興計画変更（案）抜粋
- ・ 資料 3 南部圏域課題解決プラン変更（案）抜粋
- ・ 資料 4 徳島県南部圏域振興計画（案）全体見え消し
- ・ 資料 5 南部圏域課題解決プラン（案）全体見え消し
- ・ 資料 6 「四国の右下」の新たな魅力創出に関する提案

## <発言概要>

### (A委員)

いつもトップバッターで失礼いたします。Aでございます。どうぞよろしくお願ひいたします。まず地域住民の視点からお礼と、方向性についてお話をさせていただきます。皆さん知っての通り1月の27日、県庁におきまして、岩浅市長さんはじめとする阿南市の新野シームレス民泊推進協議会の災害時における民泊施設等の協定に関する協定書を結ばさせていただきました。是非ともこの県南地域における新野町という所に、県南部の中でもやはり注目を浴びさせていただければと思っております。やはり災害時に避難所となる民泊推進、これは日本でも世界でも初の試みになると思っております。その中でいよいよ4月の8日、平等寺さんがお釈迦様の誕生日の日に開設第一号に向けて、今、地域住民新野町全体で盛り上げようとしてございます。是非ともですね、もちろん市長さんはじめ阿南市さん全庁でバックアップしていただいております。県の方もですね、是非とも規制改革の辺りでまた引き続き後押しとご支援と注目を是非ともお願ひしたいなと考えてございます。どうぞ引き続き新野町におけるシームレス民泊をどうぞよろしくお願ひいたします。それがまず1点目でございます。

2点目でございますが、この会議でいつも発言をさせていただいております、OUR徳島にも大きく出てございました、DMVの案件でございます。以前から私注目をしておりまして、この南部政策会議で2度3度発言をさせていただいております。今年度は特にですね、知事が年頭のご挨拶でも力を入れてやるんだということで、DMV計画実現、徳島県本気だということで、鉄道の週間鉄道経済等ネットでも賑わっておるのが正直なところです。計画等の推進もちろん報道関係でのレベルでは私も知っております。ただその中でですね、やっぱり県南部でございますので、もちろん住民の足と災害時における活用というのは当然でございます。それプラスですね、観光資源にリンクさせたDMVの使い方というのを同時に考えていくべきじゃないかなと考えてございます。四国の右下特にですね、先ほど修正案の49Pにも出てました2021年関西ワールドマスターズゲームズにおいては、県南部においては競技がもう既に決まっております。確か調べますとトライアスロンとカヌーが決まっているという形だったと思っております。是非ともこのDMVにですね、自転車乗せれるように、サイクルトレイン的な考え方も入れて欲しいなと思っております。よく調べましたら全国にはですね、養老鉄道であったり近江鉄道であったり、また、バスだと神奈川県の方でラックバスと言ってバスの前にですね、ラックに自転車を乗せるといったような形もございます。もちろんDMVは規制等が非常に厳しくてですね、鉄道とバスの新しい試みですので、またAむちゃくちゃなこと言よると行政の方は絶対に思うわけでございます。けども思うとなかなかできないこともございまして、せっかく四国の右下ロード大変人気がございます。ロードライドね、自転車王国とくしま確か掲げられてますよね、県の方は。是非ともですね、毎回走らせるんじゃないで、イベント毎でも構いませんので、そういった方向性は僕は観光資源の中で大事だという風に考えておりますので、その視点の取り入れをよろしくお願ひしたいなと考えてございます。

今日はあまり喋るとあれなんで、大きな地域の視点とDMV、これは必ず注目しておりますのでどうぞ引き続き推進の方よろしくお願ひいたします。以上でございます。

### (B委員)

地域医療を守る会のBです。2点ほどお願ひと提言をさせていただきます。

県立海部病院が高台に移転して、この5月開院していただけるようになりました。ありがとうございます。でもやはり新病院になって、ハード面、建物は立派なんですけどその中においでる先生方を

確保しないとまた10年前の騒動になりますので、やはり医師確保が大切やと考えております。そこでなんですけど、徳島大学医学部の地域枠の制度がもう終わるんでしょうか。まだ続きますか。はい。それを人数減らしてでも地元で先生方を育てないかと。地元の子ども達が地元でこだわりをもって医師となって住民の安心・安全を確保するような体制をずっととっていただければと考えております。それと海部病院に勤める先生方を確保するためにもやはり寄附講座続けられておりますけど、年度末になりますので財源をしっかりと確保していただいて、続けさせていただければと思います。それとやはり海部病院できまして、防災訓練をいつも県だけなんですけど、住民参加の上で実施しないと第一次避難場所があそこ高台になっておりますので、一応住民は逃げると思うんですけど、しかし救急病院ですので、第二次避難場所へと移動しないといけないんです。そのような住民達の分析もしないといけないので、やはり一度は4月の15日から5月の8日まで2、3週間ありますので、そのときに訓練も必要かなと考えております。

もう1点、命の道路海部道路なんですけど、なかなか実現、事業化にはもっていけないんです。どのようにしたらいいのかなと思って一応案は書いたんですけど、こちら資料2の方にも県の方が抜粋してくれておりますけど、やはり宍喰の方の防災公園の整備を促進していただきまして、海部道路と直結するように、県の方がしっかり国よりも先に海部道路の方をはじめますよというような体制を見せていただければ国の方もびっくりする、びっくりはせえへんか。なかなか重い腰は上げてくれません。しかしながら諦めることなく住民の方も頑張っって苦労しますので、県も曲げることなく頑張っって欲しいかなと思っております。以上です。

#### (C委員)

私はですね、安全・安心で暮らしやすい地域づくりの中の、避難所の問題、避難場所の問題なんですけど、前々回から何回となしにお話してるんですけど、岡川改修からはじまって畑田川の改修ですね。併せてこれをしていただかないことには生活道路が1本も無くなってしまうという、災害が出るたんびにですね、皆何も事故が起きなければいいなという心配が1番最初について出てくるのが、生活道路が1本もないって現状なんです。ですので、是非、この取組みは少しでも多くの予算をつけていただいて早急に畑田川の改修まで進んでいただかないことには、今現在、日亜化学がまた駐車場の問題で田んぼを埋め立てて、結局今まで水が溜まっていた部分までも舗装されてしまってアスファルトになってしまうと、また水のはけ口が無くなってしまおうような切羽詰まった状態になっておりますので、是非少しでも多くの予算付けをお願いしたいなと思っております。是非畑田川改修まで進めて欲しいと思っております。

それとですね、先日テレビを見ておりましたら徳島県の運転マナーの悪さっていう問題が取り上げられていたんですね。その中で、どこも掲示してるのかはわからないんですけど、横断歩道の脇にですね、横断歩道あるでないでっていう言葉を書くという阿波弁で書かれるということを見ましてね、それ何の言葉なんだろうかっていう、私は徳島県人でなかったものですから、それを聞きまして未だにわからない、どっちの言葉なんだろうかということで、いつでも悩む言葉の一つがあるでないでですね。是非、観光立県徳島を謳ってる県でありますので、色んな方達の出入りが必要なきにあってないではないでないかという感覚でおるんですね。わかりやすい標語を使っっていただきたいなと思っております。

それとですね、もう1つなんですけど、防災のですね防災訓練の中で、避難所訓練っていうのが1番の課題になるんじゃないかと思うんですけども、その中でやはり皆さんは避難してくださいと言われてたら、うち辺りなんかは水が出て出れないんですけどね、避難所まで行けないんですけど、一概に

皆さんがどーっと押し寄せる形になると思うんですね、避難所に。入れって言われたら。そうしましたらですね、やはり避難所に来た方達を道案内して、その場所に案内して座ってもらわないといけないと思うんですね。それなのにその訓練をしてないと好きな所に座ってくださいでは、避難所っていうのはなかなか使い勝手のいいものではなくなるんですね。今まであの東北の地震なんかもそうなんですけれども、若い女の子の隣におっちゃんが寝てたなんていうね、笑い話にもならないとても非常なことが起こりうることなので、是非これもゲーム感覚でですね、HUGっていうゲームがあるんですね。これは206枚のカードっていうのは、妊婦さんとか高齢者で足の悪い方とかそういう風に皆書いてあるんですね。そういう練習を是非、避難所訓練の中で取り入れていただきたいと思っておりますので、それもお金があることなのでね、ゲームの206枚のカードが7千円だそうですので、なかなか地域の中でその7千円が出せるか出せないかは別の問題としても、そういう訓練も必要なんじゃないかなと思っておりますので、是非、検討の方よろしくお願ひしたいと思ひます。

(D委員)

よろしくお願ひします。まず県南に導入されるというDMVの件なんですけれども、新聞とかそういうのを見ると観光の起爆剤としてっていうのがすごく謳われているんですが、地域の人達にはどのようにそれを導入することによって便利になるのかなっていうのが気になっているので、おききしたいないつも思っています。

それとですね、Cさんがおっしゃったんですけど私も県外から来ているので、あるでないではやっぱり未だにニュアンスがやっぱりわかりません、すいません。

それと提案というか、徳島県は車社会と言われていて、車がないと本当にどこにもちょっと行きづらいというのが、やっぱり外から引っ越してきてものすごく感じているんですけれども、県外から来るときに例えば飛行機とか高速バスとかそういうのを使って来ると、こっちに来てからの移動が車になった場合、レンタカーとかを借りて動きたいと思っても、空港とか徳島の駅前では借りれるんですけど、返すところがまたそこに行かないと返せないというのがあって、ちょっとなかなか色んな所を回るのが回りづらいなと思うことがちょっとあったので、もうちょっと車社会なのでレンタカーとかが借りやすく返しやすいついていうのが県全域であったらありがたいな思っています。外からやっぱり遊びに来たいという人がいるんですけれども、私とかも迎えに行つて最後そこまで送つてあげるとかいう時間が無かつたりすると、でもまあ自由に回りたいからレンタカーでっていう子もいるんですけど、なかなかこう借りると返すところがたくさんの拠点が無いのでちょっと難しいところがあって、遊びに来る人達にちょっと提案がしづらいところがあるので、そういうのがたくさん拠点があつたらいいな思っています。

それと子育て支援の件の提案をしたいんですけれども、先日、妊娠前から出産後育児までの支援をするというので鳴門市の方がネウボラというそういう拠点を作っているっていう報告を聞きました。これをですね、たとえば県南のそれぞれまあ鳴門市の場合一つの行政区がやつてるわけなんですけれども、それぞれ県南の方で市町村でやるっていうのがもし大変であれば、県南全域でそういう拠点を作つたらどうかと思ひました。というのが、鳴門市でも一応利用できるのは鳴門市民ということは謳っているそうなんですけれども、割と鳴門市外の人達もそこに相談に来たりとか、いつも助産師さんとかが常駐しているらしいので、子どもの状態とかそういうのを相談とかに来て、相談だけして帰っていくらしいんですけれども、近隣の住民も利用してることなので、そういう意味ではすごく求められている場所じゃないかなと思ひます。県南全域で一つでもいいのでそういう拠点ができたら割と子育てしやすい、しやすいというか子育てに不安があつてもこういう所がありますよって紹

介できるのではないかなと思います。それと今、首都圏を中心にはなるんですけれども、産後サポートとして父親学級とか孫育て学級っていうのが始まっていて、孫育て手帳とか母子手帳ならぬ父子手帳っていうのが出ていて、いくつかの自治体がそういうのを導入しているそうです。母親学級とか両親学級っていうのは普通に徳島県内でも行っていると思うんですけれども、両親学級なんかはお父さんも一緒に来て下さい、それで沐浴の練習をしたりオムツ替えの練習をしたりとかするんですけれども、今広がってる父親学級っていうのはそういうのではなくって、産後の奥さんの変化、たとえば寝不足になってホルモンのバランスがちょっと崩れて獣的になるとか、そういうこととかを産む前からお父さんに知っておいてもらって、産後に生かしてもらおうっていう、夫婦で一緒に育児をスタートさせるっていうコンセプトで父親学級っていうのをやっているそうです。そういうのも首都圏では認められ始めてどんどん取り入れていく自治体も多いらしいので、県南でもそういう孫育て教室、おじいちゃんおばあちゃんが多くって3世代で暮らしている世帯も多いと思うので、たとえば孫育て教室とか父親学級とかそういうちょっと新しいものを取り入れてみたらどうかと思います。これはそういう講師の方がいたりとかするので、知らない方がいきなりそういうことをやるのではなくて、講師の人を呼んでやるっていうことにはなると思うんですけど、そういうので今子育て支援、お父さんに対してもお母さんに対しても支援するということが、家族全体を支援するということになると思うので、鳴門市のネウボラっていうものを参考にしつつ、父親学級や孫育て学級っていうのをやっていったらどうかと思います。よろしくお願いします。

(C委員)

ちょっと1つお話するのを忘れてしまったんですけど、この自然とともに歩む地域づくりっていうところで、美しく豊かな自然環境の保全と利用っていうのがあったと思うんですけど、ここは海のサングのこことばかり書いてあったんですが、是非ですね、阿南市には竹文化っていうものがありまして、竹林の素晴らしさを全国に発信していただきたいなと思うんです。私は来たばかりのときに福井の竹林に連れていかれたんですけど、本当に竹の高さが、京都は観光でだいぶ歩いたんですけど、京都の竹なんかの倍あるぐらい、竹の長さが長いんですね。その中から間から出てくる光っていうものの美しさが本当に見ていて感激するぐらい綺麗なものだったので、是非、この観光立県の中の自然とともに歩む地域づくりの中に南の竹林も入れていただきたいなと思います。よろしくお願いいたします。

(E委員)

資料の4の28pの2のオレンジ色の所の数字見ていただきたいんですけど、私日々移住と人口のことは毎日のように頭の中で変わっているんですけれども、ここみたとき大ショックで、県でも7.1%減少ですよ、人口が。せやけれども県南においてはなんと12%なんですよ。またこれみて大ショック受けて、それでさらに遡っていきましたら、この間阿南市さんがいつてくださった定住なんやら、連携する、なんですかねあれ、定住自立圏。あれなんですよ、あのときの数が21年度で人口増が移住者380人で書かれてあったんです。書かれてましたよね、増やすのが。目標数がですね。阿南市さんと4町村で380人で書かれてあったの見て、そのときに県南での移住アドバイザーやらせていただいていますので、耳にすることが他町でしょ、美波町いけてます、すいませんけど。ぐっといってます今。今空き家3軒改修やって、今月13人来ますよ移住者。5組あれですよ今月だけです、確実にもう来たいって人が5組も今月だけで見に来とんですよ。これは今までにないぐらいのぐいっという引きを感じてるんですよ。総務省の調査によってもこの国勢の調査で東京首都圏の

移住者達がなんと30%若い子が移住したいって言って、その中でも8%はすぐに行きたいって言  
よんですよ。8%を徳島県がよその県と奪い合いせんといかんのですよ。その徳島県の中でも県南が  
また取り込まないかんのですよ。それを暢気にしとったらあきません。私ね、380人で聞いたとき  
にね、これちょっと無理ちゃうかと思て馬鹿な数字と思ったんですけど、申し訳ありませんけれど。  
阿南市さん2,000人にしてください。各4町ほんまに21年度までに各町村で380人ぐらい呼  
ばんともうこれ絶対間に合いませんよ、本当に。私今ぐいと来てて調子に乗ってますけれども、本  
当にこれトップの長の方が少しでもあかんと思たらこれストップしますんで、必ずいけると思っ  
て呼び込んで欲しいんですよ。そうせなね、皆さんが今提案してくれてることが人口減になったら全部  
かなわんことになるんですねこれ。バスも来ん、何も人も来ん、農業もできんていうことになるので、  
必ず力入れてやって欲しいと思ってます。それともう一つ。さっきから盛んに阿波弁がわからん書い  
てあるのがわからんていうように、何にでも徳島って書いといてもらわな困るんですよ。右下徳島で  
も何でもええんですよ。徳島右下でもいい、何でもええんですよ。徳島美波町、徳島阿南市、そうせ  
んとね、ただでさえアピール度の弱い徳島ですからね、もう何にでも徳島付けてもらいたいですね。  
徳島小林陽子でいいですから、本当に。そう言わなあかんと思うぐらい思っておりますので、是非、  
それは頭の中に入れて行政の方はやっていただきたいなと思います。

(F委員)

Eさんみたいに上手いこと喋れんかもわからんけど。美波町の自主防災連合会のFと申します。敵  
を知るっていうことを皆言ってます。見えない敵と戦うのも大概難しいと思います。まず備えが必要  
と思います。美波町に来ていただいたら、山を見ていただいたらわかるように、避難路がすごいある  
んです。これで避難路はいけるんです。これはやっぱり県民局と町、地域の関心が深いかなと思  
います。私が住んでる所は98%から99%想定の方が来たら沈没するところに住んでおります。それ  
で避難所、仮設住宅を建てる場所が無い。それがいつも課題になってますけど、本当に県、町、皆  
さんが一生懸命備えて、県民局の部長さんなんか自分で回って探していただいているような格好にな  
っております。この問題でいつも勉強会をやっております。しかし今津波が来たときどないするか、  
私ら仮設住宅もなし、避難所もないので、色々考えますとね、去年から美波病院いうのが高台にでき  
ました。それで美波病院の事務長さんと提携して、200人は1週間は受け入れると言ってくれまし  
た。ほれでまた助かったなと思っております。それに去年から隣の阿南市の福井町の小野地区の方と定  
住自立圏で阿南市さんとは結ばれておりますけど、我々地域同士で付き合おうじゃないかというので、  
昭和南海地震で津波被害があったときには、阿南市さんの福井地区とか新野地区に本当に助けられた  
んです。それでまあ恩返しをしようじゃないかというので、今後なんかあったら助け合おうという  
んで、マスコミをNHKさんを巻き込もうじゃないかというんで、こないだそれに学生さんも巻き込  
もういうんで今連携しております。来月の3月の5日には大掃除があるんで我々美波町からも行こう  
じゃないかというんで、4月29日の訓練には是非とも小野地区の方に来ていただいて、そういう付き  
合いをさせていただいています。それから今年できたねんりん、特別養護老人ホームですね。そこで  
施設長と提携というか仲がいいんで、そこへ逃げ込んだら助けてくれるかと言うたら、いつでも来  
て下さいと言うんで、もし今そういう津波が来てもしそういうようなことを考えております。やっぱり  
ハード面で備えていても東北のように、田老地区のように10メートルもある堤防を越えてきたらやっ  
ぱりやられる。あそこの人にきいたらやっぱり油断しとったというんで、私らも気持ちの上で備えよ  
ういうんで、全員を避難所へ助けるという気持ちで今もおります。これからもよろしく願います。  
以上です。

(G委員)

お願いします。私は那賀町の少子高齢化対策として、平成20年から今年で8年目になりますけれども、もんでこいの活動に取り組んでおります。この8年間のあいだにざっと数えたら70軒ぐらいの人達が帰ってきて、かつ奥さんとか子どもも入れたら250~60人というような感じで、もんできてくださる方は少しずつですが増えてきております。しかし出て行く人の数が多くて、なかなか人口増にはなっておりません。やっぱり自分達の活動が地域の人になかなか理解してもらえないっていうことで、今年はその賀町で廃校になった桜谷小学校っていうところがあるんですけども、そこで第5回的那賀町もんでこい祭りを開催しました。350人ぐらいの町内外、県外からの参加がありました。そこで今年はいじめてパネルディスカッションで、徳島大学の田中先生に司会をしていただいて、林業・農業・商業で実際にもんてきた息子さん達に意見を発表していただきました。20代、30代の若い男の人達が活き活きと家業を継いで、自分達のやり方を取り入れて仕事に励んでおられる姿を見て、もんでこいの活動もご理解を少しはしていただけたように思います。今日お越しのHさんの息子さんもその一人として林業で活躍されているっていうことで、一緒に発表していただいたんですけども、その中で小さい時からお父さんお母さんに林業は楽しいぞ、継げとは言われてないけど、楽しいぞって感じでいつも背中を見せられて、自分はもう帰ってくるのは当然と思って、大学も仕事も県外出たり市内で仕事をしてたけどやっぱり帰ってきた、自分の息子にもやっぱりそういう風に伝えていきたいっていうようなお話がありました。また農業を継いでる息子さんは、自分のお父さんが病気がきっかけで帰ってきた。やっぱり自分も息子に後を継いでもらいたいから、楽しく仕事をしている姿を子どもに見せていきたい、また商業を継いでおられる息子さんは、小さい頃からよく家の手伝いをしていて、やっぱり自分はこの家を継いでいくものだと思って専門学校にも行ったし、また帰ってきて、段々とお年寄りが多くなって買い物に來れなくなったから、自分が訪問販売を始めたっていうような形で、すごく皆さん具体的にわかりやすく発表していただいて、皆さんの感動を呼びました。一旦町を離れていくってことも大事やし、離れて視野を広げて知識を広げて色々な人との出会いがあって那賀町の良さをまた再認識して、帰ってくるっていうことの大切さに気が付いたっていうご意見もありました。私達のもんでこい、もんでこいって一生懸命訴えてるんですけども、やっぱりもんでこいっていう言葉にこだわるのは、家があったり、山があったり、畑があったり、お墓があったり、家業があるっていうことで、跡継ぎ、後継者を育てていきたいなっていう思いでやっております。那賀町の子ども達は中学校、高校からもう町外に出てしまいます。で大学は県外っていうふうに、早くから故郷を離れるっていうことで、小さいときから後継者を育成するための教育っていうか、そういうことを伝えていかなければいけないなっていうことをつくづく感じております。今年もまた那賀町、できたら木頭でこのもんでこい祭りをして、もんでこいっていうことを伝えていきたいなと思っております。これからも予算の方でまた色々県の方にもご協力いただけたらと思っております。

あと防災対策なんですけども、この資料からも南部圏域は県下でも防災盛んなんですけど、那賀町は南部圏域では90.8%と最下位です。特に相生地区は災害が少ないためか83%と那賀町でも一番低いです。平成28年度は相生地区はボランティア協議会と自主防災が共催で講師を招いて、那賀町の危険地域を再確認して一斉の避難訓練を行いました。自主防災の参加率は94.7%、参加者は846人とすごく高かったんですけども、まだまだ意識が低くて、やはり100%自主防災率を目指してこれからもしていかなければいけないっていうことを参加者全員が感じました。できたら相生だけでなく那賀町全体、また県下全体で一斉避難訓練、また一次避難二次避難の場所等の確認とか、避難運営の確認とか、近々にしていかなければいけないのではないかと思っております。以上です。

(H委員)

失礼いたします。林業をやっているんですけれども、最近やはり価格の低迷っていうことがしばらくの間続いています。それで老若男女関わらず、山はダメだなというイメージがもう定着しています。これで木を切らせてくれるっていうのが本当難しいと思うんです。民有林でそれができないから多分公有林の方に目が向いていると思うんですよね。この低迷っていうのは私達が林業に携わったとき少し1～2年はちょっと良かったんですけど、下がりっぱなしです。上へいく傾向はゼロですね。だからやはり少し会社員でありながらもお父さんお母さんが山持ってたから、お父さんお母さんらも山があるよって言うけどどこにあるんか知りません。そんなお荷物やけんどうでもええわっていうそういう風潮が定着してるんですね。そうなったら本当に仕事をさせて欲しいと思っても仕事ができない状態になる。やはりなんとかこういうイメージを払拭するためにはどうしたらいいかっていうことをね、含めて考えて欲しいと思います。

それとやはり私達作業道を山に入れますけれども、航空写真とか千分の一の地図で粗方の情報を入れます。けどそれで入れれるかっていうたらそうじゃないんです。やはり現場に入って当然違うところが出てきますので、そこはもう現場に入ってでないとわからないところがあります。で、やはり色々な林業に従事している人の意見とか話を聞きますとですね、机の上で書いてきたものとやはり現場でやるのでは食い違っているかできないことがあるんですよね。そういうところを、現場の人とは私前からお話をさせていただいているんですけれども、これをやればやるとコストダウンに繋がるし、時間もロスが少ないって思うのに、なんでこんなことになるのっていうことが山の方で起きております。現場との意思疎通ができるようにして欲しいですね。現場の人は前にもお話をさせていただいたんですけど、課題も解決する能力を持ってます、知恵も持っておいでるので、そういうところはちゃんとやって欲しいなあ。そしたら補助金、税金がそこに投入するんでも少しでも少なくなくて済むっていうふうになりますので、コストの面とそういう両方を考えながらやっていって欲しいと思います。安全・安心っていうこの、計画の中にありますけれども、山も安全・安心なんです。これから災害どこで起きてもおかしくない時代に入ってますので、やはりちゃんとした手入れをしないと安全・安心に繋がってきませんので、そこはしっかりとやって欲しいと思います。それと先ほども出ましたけれども、自然とともに歩む地域づくりっていうことで出てますけれども、森もそうですし色んなところで地域が元気でなかったら、山が自然が元気でなかったらこれはちょっと難しいなあという話になってきて、これから皆伐の方へ向いていきますので、その辺をどこでちゃんと自然と共有できるか、その辺も含めて考えて欲しいです。ちょっと漠然としたことになりますけれども。そして先ほどから担い手問題っていうのが出てまして、色んなところで話をさせていただいたりしてるんですけれども、小さい面積はあまり今はちょっと横に置いてみたいなあところがありますので、私達は小さい面積でもこういうふうなことを農業とか漁業とか色々なアウトドアと組み合わせてもやれるなあと思うんですけれども、やはり少ししか持ってなかったら日曜林業だってできるんです。でもやる気がなかったらできないです。やはりやる気を起こさせるような方法も必要になってくるんだと思います。それと林業っていうのは1つだけを考えてたらなかなかそれだけしか見えないので、やはり全体を考えながらどういうふうにして担い手を育てていく、そしてやはり安全・安心で暮らしやすい地域づくりができるかっていうことをですね、もう少し早く、こういう問題がものすごい今出てきてますので、早く早く、これはもう急いで欲しいなあとは私は思います。以上です。

(I委員)

いつもお世話になっております。JAかいふのIでございます。本日はよろしくお願い申し上げます。私の方からは2点発言をさせていただきます。きゅうりタウン構想及び6次産業化についてでございます。

まずきゅうりタウン構想でございます。このきゅうりタウン構想については海部郡の特産である促成きゅうりを核として移住就農による担い手の確保や産地拡大を目指し、県・海部郡3町・JAかいふが一体となって進めております。これまで県及び町の方々に本当にご協力をいただいた結果、新規きゅうりの農家を育成する海部きゅうり塾での2期生及び3期生の育成、そしてテレビ、JAバンクの全国テレビコマーシャルの採用、サザエさんと笑点、めざましテレビで放映をさせていただいております。この3月いっぱいでございますけれども、延長をお願いしております。そしてまた美波町内に栽培体験ハウスと研修施設を整備するための農林水産未来プロジェクトの助成が決定いたしまして、多額の補助金もいただくことになりました。全国のきゅうり養液栽培に取り組む方に参加をいただき、きゅうり養液栽培フォーラムの開催など、今年度もきゅうりタウン構想の実現に向け順調に進んでいます。さて来年度の取組みといたしましては、まず海部きゅうり塾での昨年5月からの栽培を学んでいる2期生が自立・就農する年となります。自立に向けてはハウスの施設等初期投資が大きくなることから、まず我々JAでハウス施設を整備し、貸出すレンタル方式にて栽培を開始していただくことを考えています。一人前のきゅうり農家となるべく、今後も指導・助言を行います。また、先ほど申しました栽培体験ハウスと研修施設を美波町内に整備することで海部郡全域に向け、取組みが広がっていくのではと期待しています。さらには、今年11月には、全国にきゅうり養液栽培に取り組む関係者にご参加をいただき、全国きゅうり養液栽培サミットの開催を予定しています。これをきっかけに実験ハウスで行っています養液栽培技術の確立を一日も早く実現したいと考えております。また、来年度は海部きゅうり塾をモデルに、県下全域において徳島アグリ塾が開設され、新規就農者の育成・定着までサポートしていく事業が開始されるとおききしています。我々の取組みがモデルになるということなのでより一層気を引き締めて頑張っております。

次に2点目といたしまして、6次産業化について発言をさせていただきます。農業を取り巻く課題といたしましては、農業所得の低下、就農人口の減少や高齢化、米の価格低迷による耕作放棄地の増加、行き先が不透明となったTPP問題など多くあります。これらを少しでも解決していくため、私共JAかいふでは、昨年度の学校給食向けの冷凍ブロッコリーの商品化や、今年度からは高アミロース米モミロマンをゲル・半固形状にした米ゲルでの加工商品を開発する取組みをはじめました。特に米ゲルの取組みにつきましては、米の消費拡大と米農家の生産意欲向上及び耕作放棄地の解消など、課題の解決に繋がる取組みとして期待しているところでございます。これら6次産業化の取組みについても、引き続きご支援をお願いしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

まとめとなりますが、私共JAは昨年6月より県下1JAに向けた動きを開始しております。今日も会合がお昼までございました。組合員に直接関係する農業所得の向上や生産振興、担い手育成の分野で統合の効果が生かせるよう取り組んでまいりますので、今後とも県民局及び各町の皆様方のご指導・ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。以上でございます。

(J委員)

Jです。よろしくお願いいたします。いつも防災とか人口減とか緊急性のある話をお伺いしたり、林業とか農業とか社会の色んな広いお話を聞かせていただいて、ここで勉強させてもらってます。委員の皆様にはありがとうございます。私はいつも文化とか芸術とか暢気なというか夢のようなことばかり話させてもらってるんですけども、そういう夢が皆さんの活力になればいいなと思っています。

国際交流の中で以前にもお話したかも知れないんですけども、留学生を連れて祖谷に行ったときに、阿南てこんなに都会なのになんて行っただけで、こういう山岳地帯とか溪谷地帯といいますが、日本ていいねって聞いたことがあったんです。そういえば私も県外ですけども、ちょっと行っただけで山の中に入っていくことができるっていうのは多分日本の魅力なんだと思うんですけども、私達は本当に気が付かないっていうところがあると思います。ここにもモートン先生のこととか、アレックス・カーさんのこととか有名な、日本を再発見してくれた方はいっぱいいると思うんですけども、阿南市にも外国の方が色々いらっしゃるので、なさってるかも知れないんですけども、その方達の阿南再発見とか県南再発見、徳島再発見とかお話をきいてみるのも面白いかなと思いました。最近中国の方なんですけれども日本の家庭料理を中国に紹介したいと頑張っている方もいるので、そういうような取組みもこれから広がってほしいかなと思っています。

もう1つ子育てのことですけども、私達夢ホールでこないだ、もう3年ぐらい続いて子どものための音楽会という0歳から参加できる演奏会を行っています。できるだけお父さん達にも参加してもらいたいというのでしてあるんですけども、本当にお父さん達この頃参加しますね、子育てに。お母さんとかママに気を使ってるなっていう気がしたりもしたんですけども。おじいちゃんおばあちゃん、お父さんお母さん、お兄ちゃん、もっとちっちゃい子どもという形の子ども達が参加してる演奏会を行いました。阿南の子だけでなく徳島市とか県外からもなかなかちっちゃい子ども連れて行く場所が無いんですっておっしゃってました。音楽会はもちろんちっちゃな子ども達は連れて行けないんですけども、たとえば阿南市内にも公園がいくつもできてきて、子育てしやすくなっただけですけども、時間によると連れて行っても他に誰もいなくて、母と子では私はおばあちゃんと孫ですけども、ちょっと怖くなって気がする時があるんですよ。たとえば東京の羽根木のプレイパークみたいにインストラクターがいて、あれはNPOかと思いますが、遊びを教えてくれるわけではないですけど一緒に遊んでくれる、公園の遊び方とか遊具の遊び方とかやってくれる人達とかいたり、ちっちゃな子どもからワークショップが公園であればいいかなと思います。室内で子育てサークルというのはとっても行われてきたんですけど、外へいくとなかなか大変なので、そういう遊びを指導してくれる人が公園にいてくださったらとても嬉しいと思います。

もう1つ人形浄瑠璃なんですけれども、夢ホールでもずっと開館以来阿南の新野町に伝わる中村園太夫座さんの公演を行っています。一時2桁ぐらいのお客さんになってきたんですけども、300人近いこないだお客さんも来られて、段々お客さんは増えてきました。でも人形浄瑠璃の方はやっぱりお仕事されて人形遣ってるのとそれから阿南は特にそうなんですけど中学校に民芸部はあるけど高校に人形遣ってる場所が無くて少し途切れてしまうので、きつい言い方なんですけどある方は淡路島の中学生の方が上手って言ったんです。今ちょっと人形浄瑠璃が少しずつ注目されて今だからこそ噂とか評判を返上できるようにしていきたいと思っています。人形の3Dプリンターで頭が作れるっていうこともできてきたようですので、子ども達が人形に触れる機会を作って、人形を使う人達が増えてほしいかなと思いますし、是非是非見に来てください。それと人形もそうなんですけどやはり太夫さん達が少ないんです。女性の太夫さんは出て来ているんですけど、やはり男性は何事にもゆくりしてはるのか知りませんが、男性の太夫さんがなくて、なんとか勉強できる機会とか学べる機会というのを是非是非今のうちに作っておかないと本当に人口減じゃないですけど人形浄瑠璃も人形浄瑠璃王国と言えなくなってしまうかも知れないです。

この3点だったんですけども、ちょっと先ほど発見した、資料4の25pなんですけども、人形浄瑠璃の上から4行目の中村園太夫座カッコ岡花座とあるんですけども、今まで地区の名前岡花座っていう名前を謳っていたんですけども、この1月の公演から中村園太夫座だけを使うようになりま

した。岡花座を使うようにならなくなりましたので、私が言うことでないのかも知れないのですけれども、また気にして欲しいと思いましたがよろしく願いいたします。以上です。

(K委員)

今回もですね、この会議元気で出席でき、本当に幸せでございます。南つるぎ地域活性化協議会の地下足袋王子ことKでございます。今日はよろしくお願ひします。今観光観光、色々皆さんやられておりますけれども、大事なものは、私は今那賀町で1番観光にいいなと思うのが、冬のスーパー林道を開放してですね、冬の観光、これほど素晴らしい場所はないと思います。標高は1,301mから1,500mくらいのところを林道が通っております。総延長87.7km、上勝神山そして那賀町を結ぶ道。春は新緑、夏は登山、秋は大紅葉をしますね。色んな方、バイク乗りだけではなく家族連れも大変よく訪れております。冬なんですね。四季美谷温泉さんは樹氷まつりを今年やめました。とんでもないことです。18年も続いた観光資源。あるものを使ってやろう、私はいつも言ってます。建物を建てろと言っているわけではありません。あるもの、それは自然を活用するということですね、是非。冬雪が降って凍結して危ないという人がおります。それを解消するのが除雪機が必要ではなからうか。徳島県の方ではないかも知れませんが、那賀町さんも本当に力を入れてですね、除雪車、ブルドーザーじゃなくね。ああいう導入を図っていただいて、冬の観光を是非、お願ひをいたしたいと思ひます。私の元気な内に是非、お願ひをしたいと思います。

それで資料6の中でですね、企画型民宿、アウトドア民泊と謳われております。実は私事でございますけれども、旧の四季美谷温泉、そこをですねお借りいたしました。宿泊を、アウトドアの宿泊。それと5月の21日にトレイルランニングレースを今計画をいたしております。スーパー林道全部を走りたいと思っております。80km余りのね。そういう方の宿泊の施設にもしたいと思っております。色々消防法とか難しい面もあるんですね。それをできるだけ素通りでですね、やっていただきたいなと。それも新しく建てるんじゃなく、あるものを利用してやっていこうと思っております。以上でございます。

(L委員)

子どものことになるんですが、今、子どもが2人いるんですけれども、そろそろ5歳と2歳になるんで習い事をさせたいなと考えていたんですけれども、海陽町の宍喰では人口が少ないために習い事がECCと公文と習字ぐらいで、そろばんを習わせたいなと思つて行ったんですけれども、そろばん教室が無かったんです。それで自分で学んだ事はないんですけれども、ネットで調べて教えてみたんですけれども、限界がありまして、やっぱり本当にしっかり習ってきた先生じゃないと無理なんかあと限界を感じています。人口が少ないんで教室を1個開いてしまうと、やっぱり経営的にその人も立ち行かなくなってしまうので、週に1回ここでやる、宍喰でやる、海部でやる、月曜日は宍喰、火曜日は海部、水曜日は海南、金曜日は鯖瀬というように、ぼんぼんぼんと色々な拠点のところ教室を開いていると、その先生も収入がまあ平均にはなってくるんじゃないかなと思つて、そういう人を都会から呼ぶみたいな感じで地域おこし協力隊として、バレエとかそういう先生とかを呼んでいただけたらどうかなと思ひます。やっぱり大阪とか東京やったら習い事がなんぼでもあるんで、子どもの未来の可能性はなんぼでも与えられる気がするんですけれども、そろばんをさせたいと思つても、もし30分ぐらい移動距離がかかるところに行かせなダメやったら、農家をしているんで時間がないんです。だからそれをやめようってなつてしまつたら、子どもの可能性を親が潰していつてるんじゃないかっていう恐怖心があつて、地域おこし協力隊ぐらいしか思ひ付かなかつたんですけど、そういう

勉強の方の先生として地域おこし協力隊を使っていたのはどうかなと思いました。

もう1つは農協さんなんですけれども、年間5人、農協さんに質問も大丈夫ですか。年間5人を目標にこれからきゅうり塾でやっていくとおっしゃっていたんですけれども、そうなるハウスがどんどん必要になってくるじゃないですか。それはほんまにずっと保証できるもんなんかなくてという心配があります。あと米ゲルとか開発してくれてるんで、お米が今安いので農協に出しても安くなるから出たくないなと思っていますけど、すいません。でも米ゲルとか発売して海部農協に出したらお米が高く売れるんやっていうんがあったら、いいなあんたところはお米高く売ってくれてみたいになって、今やったら高知の農協は強いんで、高知の農協いいな今思っているんですけど、徳島の農協いいなあんた徳島でって思われるように、ちょっと頑張っていたいただければと思います。

(M委員)

それではお願いします。まずは那賀川浸水対策で、無堤防地区の加茂地区に土手を早急に作っていただく工事に取りかかっていたら、ありがとうございます。それと吉井小学校前と加茂谷中学校のところの駐車場のところに地域住民の安全のためにミラーを付けていただきました。高齢者がとても、軽トラの人とか、通学路なので付けていただいて喜んでおります。ありがとうございます。それと1月の27、28日とBさんも一緒に行かれたんですけど、全国道づくり女性交流会議っていうのに参加してまいりました。去年、一昨年と3年間徳島県がホストクラブの県ということで、徳島県の職員の方にも大変お世話になりました。全国から女性の会ですので、素晴らしい自分の意見を言う女性の方がたくさんおいでたんですけど、徳島県の職員さんはどの意見にもすぐに対応して、徳島県の職員さんてレベルが高いんだなと、参加した皆で感動したので、お世話になりました。

それでは私の意見を3点ほど言わせていただきます。高速道路ができて櫛淵インターができるということをお聞きしました。それでその櫛淵インターができたときにですね、10年ほど前から加茂の土手のところ、加茂中学校から阿瀬比にかけての計画が進んでおるんですが、今、用地買収の問題とかで止まっております。2軒ほど立ち退きもしてくれたんですけども、止まっております。そこには太龍寺とか、そこ抜けますと驚敷の方には大塚の工場とかもございまして、是非ともあの道を早期に取りかかっていたらいいと思います。そしたら黒河バイパスも、もっともっと付けていただいたのが価値が上がると思いますので、お願いいたします。この中学校から阿瀬比にかけての道が広くなればいいなと思うのは、私だけでなく、驚敷、那賀町の住民の皆さんもすごく要望してるということなので、是非ともお願いいたします。1箇所だけ買収ができずに10年ぐらい前書いていただいた案が止まっているということですけど、その方も用地を提供してくれるような動きになっているということなので、是非ともお願いいたします。

それと、東京に行ったときの講演で、森技監様がおっしゃっていたんですけども、道が地域の発展の助けをするということなので、道ができたら自分達で誇りのある町づくりをするのがポイントということ講演の中でおっしゃってくれたので、私はその道が太龍寺に繋がる道だったりとか魅力ある道になればいいと思うので、よろしくお願いいたします。

それと、こないだ県議会を初めて傍聴させていただきまして、それもいい勉強をさせていただいたんですけども、その中で阿南インターができたときのアクセス道路として、東西幹線道路に非常に力を入れているということで、その中に阿南勝浦線も含まれているということで、非常に嬉しく思いました。今ですね、警察の方もおいでしてくれてるんですけど、今持井橋から朝7時から8時の間なんですけども、日亜化学の出勤の方がもう7時前から8時ぐらいまで途切れることなくずっと来ているんです。それで渋滞を緩和するために櫛淵に降りる所に今信号を付けていただいております。ですがその

信号があるために、右折する車が1台いれば徳島方向に行く車が止まってしまって、次の信号が変わるときに1台ぐらいしか通れずに、かえって渋滞というか日亜化学出勤する人にはすごくいい道にしてくれているんですけど、反対に阿南から徳島に向いて行くにはちょっと困った状態になっておりますので、そこまた7時から8時の間に1度現地調査などしていただいたらありがたいかと、みんなが思っておりますので、よろしく願いいたします。

それともう1点、先ほどCさんが竹の話ですね、見る竹が出ておりましたが、私こないだ県議会を傍聴したときに、徳島県が自然エネルギーに力を入れているという話をききまして、なるほどっていう話をそのときに思ったら、今日ですね、この資料4の55pに竹材のエネルギーということ、これが入っております、ずっと前に経済新聞で阿南の辰巳にある工場、竹のエネルギーで起こすことを山口県で既にして、次は阿南市、県南でもしたいっていうようなニュースを聞いておまして、県議会を傍聴した後皆で話題に出たんですが、その今加茂谷も櫛淵も新野も福井も竹が生えて生えてタケノコを掘る所が見た目も汚いしあれなので、そういうエネルギーにすることができれば、農業の収入にも繋がるし、先ほどCさんが言った綺麗な光になるかもわからなくて、一石二鳥ではないかなと思っておりましたので、それも意見として付け加えさせていただきます。以上です。

(津波減災部長)

津波減災部です。まずC委員からお話ございました、避難所のHUG、避難所運営ゲームの頭文字を取ってHUGっていいですけども、これにつきましては、お話ございましたように、避難所運営の中で、避難所に見立てた平面図に適切に避難者を配置するとか、それからトラブルにどう対処するか等、避難所運営を疑似体験するゲームでありまして、非常に有意義なものと思っています。実はうちの県民局にもございます。ということで、南部管内だったら、今まで津乃峰でありますとか福井、それと海陽でもやったと思います。そういったところで実施しておりますので、今後ともしっかりと取り組んでまいります。

それともう1点、F委員からお話ございました。F委員におかれましては日頃から県事業に協力していただいて、昨年度は県が実施した津波減災フィールドワークで講師を務めていただいて、大変お世話になっております。厚く御礼申し上げます。来年度につきましては、県と致しましても津波避難後の数日間の滞在を想定したテントでございますとか簡易洋式トイレの整備支援のほか、委員が進められております福井町の小野地区と由岐湾内地区の連携といった内陸部と沿岸部の地域連携の取組みにつきましてもしっかりと取り組んでまいりたいと思っております。引き続きよろしくお願いをいたします。以上でございます。

(保健福祉環境部長)

保健福祉環境部でございます。私の方から何点かご質問いただいておりますので順次お答えいたします。

まずA委員から民泊のシームレスの関係で、阿南市さんの方と一緒に進めているところでございまして、その中で規制緩和ということでお話をいたしました。我々と致しましても、これまで色々規制あったものを市町村長から災害時に要援護者の受入れを行う指定を受けることを条件に、これまで専用区間を区切っていたのを自宅の活用、それから近隣の空き家の活用、それからトイレとかこれまで10人程度でしたら2台いったものを1つでいいといった形で、規制緩和、こういったものを阿南市さんとも一緒に進めたいと考えております。

それからD委員から父子手帳、子育て支援というお話がございまして、実は県内父子手帳というも

のは、発行してるところが3市町村ございまして、その中に実は県南で申しますと阿南市さんが現在父子手帳の方を発行しております。これ自身はそれぞれの市町村の方で独自の考えでやっているものでございます。ただ非常に今お話がございましたように、子どもを初めて持つ父親の心構えといいいますか、どうやって奥さんのケアとかしたらいいとかかそういったものをされてる非常に有効なものでございますので、南部全体にこういったものが広がっていくように、阿南市さんの手帳も参考にさせていただきながら、普及に取り組んでまいりたいと考えております。以上です。

(産業交流部長)

それでは産業交流部でございます。2人の委員の方、C委員、M委員さんの方から竹林の話、またタケノコの話をしていただきましたのでその辺のお話をさせていただきます。竹林、これは綺麗に整備されておれば非常に美しいものでございますけれども、残念ながら今管理が行き届かず放置竹林が進んでおります。そうした中で阿南市での取組みをちょっとご紹介させていただきますと、平成25年度から地域の住民の方々が組織を立ち上げまして、国の交付金、いわゆる森林山村多面的機能発揮対策交付金を十分活用しまして、侵入してきた竹の除去、また竹林の整備なんかを行っております。今年度は約58haの整備がされる予定でございます。またM委員の方からありましたように、阿南市の企業が平成30年度に竹を燃料にしましたバイオマス発電の施設を作るというようにきております。こうしたことが実現しますと、こういった竹林をバイオマス燃料として活用する、こういったことでタケノコ産地の活躍でありましたり、また竹林の拡大防止に繋がるのではないかなと我々も期待しているところでございます。それでこういったことを待ってるんじゃなくて、やっぱりこうしたタケノコを産業として活用するように、そんな取組みも我々としてはしていけたらなと思っております。そこで産業交流部としましては、昨年も28年の2月と10月にタケノコの生産振興大会っていうのを開催いたしまして、生産技術の確立でありましたりまた情報交換等を密にしてきたところでございます。この中で県南タケノコアカデミーというものを設立することになりまして、その中では竹林の再生に向けた研究でありましたり、また技術開発、また販売戦略なんかも検討するようなことになっております。今後こういった取組みをどんどん進めていきたいなと思っております。また観光資源の取組みとしましては、ご存知かもわかりませんがタケノコの里はたえだ直売所が中心になりまして、タケノコ祭りなんかもやっておりますし、また竹林を舞台としたコンサートなんかも控えております。こういった活動にも県としては支援をしておりますし、引き続き情報発信をしていきたいと思っております。また同じ直売所が中心となりまして、今年の4月から観光タケノコ園が開園する予定でございます。こういったことも含めまして、県としては精一杯支援をしていきたいと思っておりますので、皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。以上でございます。

(県土整備部長)

続きまして県土整備部の関係、3点ほどお答えしたいと思います。まずB委員からいただきました海部道路の整備促進についてでございます。海陽町で海部道路と併せまして整備を致します宍喰地区の地域防災公園、これの基本構想を昨年12月に取りまとめでいただきました。これは非常に画期的なことございまして、海部道路早期事業化に向けた次のステップとなります都市計画決定という手続がございまして、これに向けた大変大きな弾みになるのではないかとということで、県としても引き続きましてこの防災公園が早期に具体化されますように、周辺のアクセス道路の検討も含めましてしっかり支援してまいりたいと考えております。B委員さんには引き続きご支援、ご協力をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

続きまして岡川、畑田川等改修についてでございます。岡川につきましては旧国道55号の清水橋までの約1km区間でございますが、河川改修が完了しております。ただ全体の事業計画区間からしますと約3分の1程度でございます。それで着工から49年でまだ3分の1かということで、もっと進捗を促進すべきではないかとお叱りというか激励をいただいておりますので、そこで事業効果が早期に発現できるような工夫ができないかということで、今年度は事業費約4,500万円でございますけれども、清水橋から上流約300メートルにつきまして、流水断面を確保する、要は川幅を広くするというところでございますが、そのために河床掘削を実施いたしました。それで300メートルということで非常に広がったなというような感じがするかと思います。今後も予算の確保を図りながら事業促進に努めてまいりたいと考えております。

最後にM委員からいただきました県道阿南小松島線の改良促進のお話でございます。今般この県議会2月定例会の本会議におきましても先ほどお話しのとおり、四国の自動車道の立江一櫛淵地区に追加の新たなインターを建設するという方針が示されたところでございます。ということで、この阿南小松島線は追加インターチェンジへの接続道路となります。いわゆるインターアクセス道路ということで重要性がますます増大してくるということでございますので、これも改良促進が図られるように努力してまいりたいと考えております。以上です。

(阿南警察署副署長)

よろしくお願ひします。あるでないでをちょっとご説明させていただきたいんですが、あるでないでというのはあるじゃないですかという意味です。全文ご紹介しますと、「横断歩道あるでないでなんで止まれんの」まあ私はもう阿波弁しか話しませんのですのでピンと来たんですが、横断歩道があるじゃないですか、どうして止まれないの、こういうような意味合いでマナーアップの向上を図るということで、警察本部の交通部の方で企画しております。ちょっと確認いたしました。ご説明しますと、県警察では本年を交通マナーアップ元年と位置付けて、交通マナーを向上させる対策を推進しているところであり、この度交通情報板を活用しドライバーに対して阿波弁で呼び掛ける試みを開始したものです。対象は主に徳島県民としており、阿波弁を用いることでより親しまれやすく話題性が伝えられることや、また意味がわからない県外の方が興味・関心を持つなどして、より多くのドライバーに対して啓発活動が可能となり、効果的であるとの趣旨から実施したものです。その結果、新聞、テレビ等で大きく取り上げられるなど、反響は大となっております。C委員、D委員から意味がわからないとご批判がありましたが、これも1つの効果でないのかなと思われまますので、これからどうぞよろしくお願ひします。

それとM委員の質問については、後でまた回答させていただきます。以上です。

(経営企画部長)

経営企画部でございます。実は私どもの方で移住定住を所管しておりまして、第1回9月5日のときも多くの委員さんからご意見賜りまして、今日もE委員さん、G委員さんから大変重要なお話をいただきました。移住定住につきましては今日も市長さん、町長さん全員ご出席いただいているようですけど、本当に市町の皆様方と南部県民局と一体となって若者創生協議会という組織を立ち上げ取り組んでおります。それで、こういった各界の最前線で取り組んでいただいている皆様のご意見を踏まえて施策の方を展開していくという姿勢で臨んでいるところでございます。そうした中で、前回B委員の方からインターンシップの学生を4名受入れということで、もっと若い方が地域に入っていくことが非常に重要なんだというようなご指摘いただきまして、今回の会議で早速数値目標

インターンシップ参加者年間300人という目標を設定させていただきました。

また前回E委員さん、N委員さんから移住なさる方の仕事が大変なんだというようなことで、その辺りを施策にしっかり盛り込んで欲しいということでございまして、そういったお声を反映しまして来年度は四国の右下創業塾ということで、また皆様方の力をお借りしながら、移住者の方非常に取り組んでいただいているというところで、民宿、飲食店なんかを始めてみませんかというような創業塾を展開していきたいと考えております。

またO委員さんから45歳以上の高齢者を取り込んでいくことも人口増に非常に重要だというようなお話がありました。そういったご意見を踏まえまして、今年度は県と協定締結して管内にサテライトキャンパスを徳大、明治大学さんと連携しまして、防災や農業に関わる生涯学習講座を開設して、四国の右下ならではのCCRCを展開したいというふうに考えているところでございます。

今後とも皆様方のご意見を踏まえて施策展開をしまいたいと考えておりますので、引き続き協力のほどよろしく申し上げます。

#### (次世代交通課)

次世代交通課です。先ほどA委員、D委員からDMVの件でご質問いただいております。この件についてお答えさせていただきます。阿佐海岸鉄道、阿佐東線へのDMVの導入につきましては、車両の製作に一定の目途がつかしましたことから先日2月3日、徳島高知両県と海部郡3町それと東洋町で作る阿佐東線DMV協議会、こちらの第2回を開催しまして、3台車両製作をすることや、2020年の東京オリンピック・パラリンピックまでに営業の開始を目指すこと等について取りまとめたところです。今こういったスケジュールに基づいて車両の製作や駅舎の改築に順次着手するとともに、JR北海道が今現行の試験車両を持ってるんですけども、それを借りてきましてイベントを実施したりしましてですね、地元の受入れ体制を構築したりデュアルモードの特性を最大限活かすためのバスモードの利活用の検討等を進めていきたいと思っています。それでメリットといった部分ですけども、まず阿佐東線へのDMV導入については燃料費の軽減、こういったことを始めとする経営改善、これに資することはもとより、線路と道路を乗り換えなしで行き来できるという世界に類を見ない乗り物の世界初の本格的営業運行を目指しておりますので、こういったことが車両自体が、こういった取り組み自体が観光資源になることから、観光振興に大きく寄与すると考えておりますし、先日の協議会を開催したことを1つ取りましても、多くのマスコミ、新聞、テレビに取り上げられました通り、単に広告効果とかそういった部分だけでも大きなものがありますし、何よりこういったことから県南、阿佐東地域が一躍全国世界に知れ渡るというきっかけやタウンプロモーション、シティプロモーションの大きなツールとなるとも考えてます。先ほどA委員さんからご呈示いただきました2月8日の県の広報誌アワーとくしま、そちらをよく見ていただきますと、他の県との紙面交換スペースというのがありまして、そこは高知県になってるんです。ていうことは高知と徳島、徳島と高知、阿波と土佐ということで、阿佐のコラボレーションがこう密かにさせていただいております、そういった小さな工夫ですけども、小さな工夫大きな工夫、色んな工夫が地元から湧き上がってくるようなわくわくしたものになると考えております。そういったことから地域経済の活性化が期待できると思っています。後利活用の方法ですね、鉄道に関しましては阿佐海岸鉄道って鉄道がありますのでイメージしていただけたところだと思うんですけども、バスの方、バスモードの活用の方向性については、まずは周遊観光、イベント利用等の観光用途を目指しているところなんですけれども、A委員からいただきましたご質問はもっともっと地域の生活に密着した意味での便利という意味だと思います。そういった用途につきましても、意見を踏まえまして今後検討を進めたいと思っておりますので、地元

自治体・関係者の皆さんと検討を進めたいと思います。いただきましたご意見は今後様々な検討をする中で参考にさせていただきますので今後ともよろしく申し上げます。ありがとうございました。

(教育委員会)

県教育委員会でございます。教育文化課というところで文化財を担当しております。J委員さんから阿波人形浄瑠璃のことをご意見いただきましてありがとうございます。現在県立高校におきましては、城北高校、小松島西高校勝浦高、そして那賀高校の3校で部活動で人形浄瑠璃に取り組んでおりまして、委員ご指摘の新野中学校を卒業した生徒さんが進学する高校、阿南市の学校では部活動での人形浄瑠璃はないというのが実態でございます。部活動につきましては各学校が自主的に作っていくものでございますので、いただいたご意見の方を各学校にお伝えしたいと考えているところです。

後男性の太夫が少ないというような点もご指摘いただきました。県教育委員会の方では毎年夏休みにあわぎんホール、郷土文化会館の方で阿波人形浄瑠璃伝承教室というものを開催しておりまして、人形遣い、三味線、それから太夫、この3つを勉強していただきまして、中学生・高校生にも多く参加をいただいております。ちょっと県南の方から遠いところでございますけれども、この教室に是非多くの中学生・高校生の方に参加いただけるように、また周知等に務めてまいりますので、今後と引き続きましてご支援よろしくお願いたします。ありがとうございます。

(I委員)

塾生は今年も8名ほど希望者がございますけれども、8名を受け入れるというのはちょっと困難かなと思っております。また5名程度ぐらいを受入れしようかなという予定にしております。またご指摘がございましたように、5名が卒業したら5人のハウスになるんかということでございますけれども、うちにお金がJAになんぼでもあったら、ぼんぼんぼんぼん建てれるんですけども、本当に高額なハウスということだったらお金もかかりますので、まずは今年は未来基金の方で、日和佐の方で試験的なハウスを2反、1棟建てまして、そしてまた県のご支援をいただきまして1棟、2反ということで。そして全農の方でまた2反のハウスを今年は海陽町で2棟ということでございます。ほれで美波町に1棟ということで、そのぐらいしかうちの方としてもあれがございませんので、そして後の塾生はまた10ヶ月勉強していただくんですけども、それで自身の無い方はまた全農のハウスに自分で経営するんでなしに、もう1年でも実地で勉強していただきまして、ということをご予定しております。

そしてまたL委員からお米が安いということでございますけれども、本当にお米は私もお米を作っております。本当に米は安いです。もう少し消費者がもう少し高く買ってくれば、野菜も一緒です。もう10円でも20円でも高く消費者が買っていただければ農家は増えると思っております。もう本当に安いもんでなかったら消費者が買わない。そういうことでございます。1次産業で作る人の思いをもう少し汲んでいただきまして、もう10円でも100円でも高く買っていただければ、農家は、私は増えると思っております。

(産業交流部長)

産業交流部です。組合長に色々思いを語っていただきましたけれども、委員さんご心配の通り、今後は塾生が増えていったらハウスが追いつかないのではないかとご心配もつともかと思っております。県としましてもできる限りの応援はしていきたいと思っておりますし、新規就農者に必要な補助金等の確保には努めていきたいと思っておりますけれども、またきゅうり塾の中ではきゅうりタウン構想が掲げます30

アールっていう経営規模ではありますけれども1,000万円という目標を掲げております。こういうものを実現するための技術確立っていうものを進めておりまして、今は30トンを目指してはおりますけれどもいくいくは40トンとれるような、そんな技術確立を目指しているところがございます。こうなりますと自立できる農家も育つのかなと、そうなれば自力でも資金を借りて建てれるような、そんな農家も育てていけたらなと。ですから我々としましてはこういった技術確立を1日でも早くしていくことで、資金難なんかを乗り越えられるような、そういう力強い農業者を作っていきたいと考えております。今後ともご理解よろしく申し上げます。

(阿南市長)

地元ということで最初に言わせていただきます。申し訳ございません。まず冒頭に会とは直接関係はございませんが、先般、阿南市の職員が不祥事を起こしまして、公務に対する住民の信頼を失墜いたしました。市民の方、そして公務員の方々にも大変迷惑をかけましたことを、私からお詫びを申し上げておきたいと思っております。申し訳ございませんでした。

私は質問はございません。1つだけ申し上げておきます。さっきAさんから言いましたシームレス民泊、日本初のシームレス民泊、4月に発足をします。知事さんも出席していただけると聞いております。これは非常に意味のあることとございまして、新野というのは合併する前は、阿南市ができるまでは阿南市の中で1番裕福な町だったんですね。今でも日当たりはいいし津波は絶対来ないし、それから生協も新野に移りましたね。物流基地も移りました、先般。それから缶詰工場がほとんど新野にあります。そういった意味では食料も心配ないし、町民性もAさんみていただいたらわかるように大変明るいです。それから将来的には防災の道の駅を新野に作るということも色々お話をさせていただいておりまして、安心の町新野ということで売り出していきたいと思っております。それから新野小学校では昔夏目雅子と岩下志麻と郷ひろみが来て、あの小学校の所で瀬戸内少年野球団の撮影をやった。その写真がきちんと残ってまして、阿久悠が原作で、今の作詞家協会の会長は阿部出身の喜多條忠さん、こないだ阿南で講演していただきました。そういうことで新野小学校に今年瀬戸内少年野球団のロケがあったという記念碑を作る予定なんです。新野駅から小学校まで長蛇の列、ずらっとロケを見に。夏目雅子見たんですよ。本当にやっぱり野球帽被っただけで、本当に美しい。それから最後になるんですけど、阿南には郵便はがきを発明した前島密の側近で青江秀という、ひいずは優秀の秀。これが長生出身なんです。この方がおります。最後長生で亡くなったんです。北海道開拓の責任者。それから橋本宗吉、これ新野出身。電気の祖です。平賀源内じゃないんです。この南の方は森繁久弥だって戦後すぐに牟岐で魚の行商しよったでしょ。ジャンボ尾崎も色々おりますよ。だからそういう過去の色んな人をもういっぺん発掘したらどうかなと、そして物語が作れるんじゃないかなと。たとえば阿南の阿南化成がソルベイっていう正式名になりました。このソルベイっていう会社はベルギーに本社があって、ソルベイができたときの写真があるんです。キュリー夫人が参画しとる。物理学賞と化学賞2つノーベル賞取ってる。アインシュタインもおるんです。そういう企業が阿南市にあるんです。今まで阿南化成だったけどソルベイジャパン。これ正式名変えました。そういう案外灯台下暗しでね、足元に色んなものがあるということをもう1度我々見直していいんじゃないか、高知の中岡慎太郎まで入れてね。この海岸線は非常にいいと思っておりますよ。和歌山大学の岡先生のあれでは、自殺率1番低いのが旧の海部地区と。やっぱりいいとこなんですよ。

最後Mさんには申し訳ないんですが、木材のバイオはすこぶるうまくいっている、クラブウ、新野の会社でやったんですけど、非常に順調にいっている。ただ竹のバイオマスは私、藤崎さんと気安いんですけど、非常に苦勞しています。ドイツまで行って色んな機械持ってきて、しかしまだできない。

竹のバイオは今本音を言いますと、非常に難しい。私は不可能ではないかと思ってる。日本の竹ではできないですよ。それを私は伺っとるけんね。高専も入って研究しても本当に難しいんです。それだったら木材の方がどんどんやっていくべきではないかと。私が言よんではないんですよ、学術の専門家の高専の先生がおっしゃってる。それが現実です。

(那賀町長)

私の方からはGさん、Hさん、Kさんのご提言なりご意見にちょっとお話をさせていただきます。Gさんは本当にもってこい活動を非常にお世話になっております。色々言われる中でありますが、自信を持ってやっていただきたいと思います。といいますのは、那賀町の一般職の試験受けられる方、この方々ほとんどもって来られた方なんです。那賀町に帰りたいからという方が8、9割です。今年も10名採用しております。来年もそれぐらい採用せなんだらちょっと職員足らんかなと思っておりますので、そういったことを含めるともってこいの活動で帰ってきていただいている方が非常に那賀町は多いと思います。それから移住者の方ですが、この方々も色々町としてもこれから対応できるように、29年度平野の保育園跡、そこにシェアハウス5棟を建設する計画を進めております。設計はできております、予算化もできております。最長1年と、1ヶ月でも2ヶ月でも最長1年まで試験的に暮らしていただきたいということで、進めております。

それからHさんの林業の問題、これは非常に難しい問題なんです。この3月に吉野に建設をしておりましたセンターが完成をします。開所式も合わせて行うわけなんです。ここで開所式までに色々協議したいこと、事業体なり森林組合と今協議を行っておりますが、特にこれから林業の中で進めていきたいのが、お話にもありましたように木材価格はほとんど上がらないという状況の中で効率化と価格交渉、これを進めるために直送体制を取っていこうということで、吉野地区にあそこ森林組合だけでなく事業体全ての方の木材をあそこに集積して、需要先に合わせて供給体制を構築していこうと、それによって途中の、今だったら市場へかけたなら市場代とかせり代だとか市場手数料、そういったものを省けるだけ省こうと。で需要先とも年間の必要量、そういったこともお話をさせていただいて、適正価格も含めて交渉していこうという体制を作っていこうという形を今進めております。そういった体制を構築して今お話したような個別にそれぞれ需用に応じた供給体制を作ると同時に、途中での搬出の効率化、これも去年から那賀町で町有林でどういった方法で出すのが一番価格が安く出せるのか搬出面積が出せるのか、そしてこういう条件ではこれぐらいはどうしてもかかるというような何点かの試験を行っております。そういったことも個人の民有林、県からの皆さん方にもお示ししながら、林業家の皆さん方にも搬出に協力をしていただける体制を構築していこうという形で今進めてございますので、またHさんには特に色々な方面でご助言なりご指導賜ることがあろうかと思います。またよろしく願い申し上げたいと思います。

それからKさんの樹氷まつり、非常に私も残念でした。急に中止になったという話を聞いたんですが、もう少し早ければなんかの対応できたかなって思ったんですが、これについては来年はなんとか開催できるように色々今まで来ていただいた方のご意見もおききしますので、ただ除雪車がいいのかどうかということについては、金額も含めてこれはまた関係者の皆さん方とご協議させていただきたいし、町としても財政的などころもございまして、活用方法もどういった活用ができるのかということもあろうかと思います。それを十分ご相談させていただきたいと思います。

それから、その他の方のご意見なんかで町に関係あることで、Jさんに人形浄瑠璃の件もおききました。徳大の吉田先生、お世話になった先生がおいでで、その先生の紹介で那賀高校に3Dプリンターで作った人形を2体、町が買うことにして今注文しております。1つ10万円ぐらいでできるそ

うです。そういったことも那賀高校でも先ほどお話しありましたが進めておりますので、那賀高校を希望される方がおりましたら、そういうのがありますよと是非お勧めしていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

それからMさん他色々言われました県道の改良につきましては、本当に那賀町としてもAさんからもお話ありましたが、2021年関西ワールドマスターズゲームズが美波町と那賀町で開催される、那賀町カヌーです。これが開催されますと、マスターズって家族連れさんが多いらしいですね。選手だけでなしに、そういった方がかなりおいでる。やはりそういった対応をするためにもインターができますと必ずそこに来ると思います。そこから那賀町へ来る道となったら先ほどから出てくるお話の県道を通ることになりますので、是非とも2021年、2020年のオリンピックの次の年、2020年のオリンピックのカヌーのキャンプ地として今ドイツの選手の候補地としてこれも準備進めてございます。まだこれは確定してないんですが、2021年の関西マスターズは既に決定しているときいておりますので、この4月にニュージーランドで今年開催されますので、そこに事前視察に行く予定としております。そういった関係と、それから大塚製薬さんもテクノさんも、やはり高速道路が阿南まで来れば工場の増築あるいは生産ラインの増産体制に入れるように今準備進めてございますので、やはり大塚製薬さんの従業員さんも今はあちらを通るなということにしておるらしいんですが、高速ができれば必ず通ると思いますので、その件も含めてよろしく願いしたいと思います。私の方からは以上です。

(牟岐町長)

本日は牟岐町からB委員さんお1人の参加なんですけど、先ほど海部病院ができて5月8日オープンで避難訓練もまたやっていただきたいという風なご発言ございました。これまでは津波の浸水区域でございましたので、逃げるという訓練だったと思うんですけども、今度は高台にありますから避難してきた人を迎えるようなことになるのかなと思っております。現在、海部病院の隣に町の避難広場を作っております、そこへ至る道路が町道が今整備中でございます。これができると合わせて実施できるといいなという風に考えてございます。

今現在、牟岐町この振興計画にあんまり入っていないんですけども、3つほど明るいニュースがございまして、1つは今申し上げましたように海部病院の5月8日のオープンということでこれは本当に地域医療の核となる、また先進的な地域医療を目指しておられるということで非常にありがたいなと思っております。

それと地震津波が来たときの災害拠点病院ということで、これもまた日本一つて言ったらいいんだろうか、四国一、本当に最先端の拠点病院ができてるんだなという風に期待してございます。この2つ合わせてですね、観光振興にも、つまり見学に来ていただける方をなんとか拾いたいなと考えております。

それともう1つは、2月の23日に官報告示されたんですけども、出羽島の重要伝統的建造物群ですけども、これは本当にニュースになっていないんですけども、結構お客さんが来られてます。お客さんというのは今の段階ではまだ整備が始まる前に見ておきたいという、建築士の方、それから大工さんの研修とかいうことで実務に合わせた方が来ておられる場合が多いんですけども、将来的にはそういう風な波が続くことを期待しております。まず伝統的な工法を知ってる方がどんどん減っていついてるんで、そういう風な知識がある人を、つまり建築士を増やそう、それから技術者を増やそうということで、そういう研修会を出羽島でやろうと、それで出羽島から徳島、日本に出て行ってもらおうという取組みも建築士会の中で進めてございます。それと先ほど阿南市長さんからもお話し

やっていたように、たくさんの偉人が徳島県におるんだよってということで、牟岐町の場合も木本正次さんという方がおいでるんですけども、ご存じの方はご存じかと思うんですけども、黒潮の碑文という本を書かれた方で、有名な本では黒部の太陽、石原裕次郎ですね、この原作を書かれた方が牟岐町出身です。この方の記念館みたいなものも出羽島にできるといいなと、今の段階では考えてございます。

それともう1つですけども、徳島県さんのお力によってサマースクールを3年前からやっていたいておりますけれども、この副産物といいますか卒業生の方がひとつむぎとって、牟岐町を支援していただけるようなNPO法人を作っていただいて、ローカルハイスクールってって、牟岐町に高校が無いんで、牟岐町の高校生あるいは町外の高校生を集めて、社会教育というか社会人になるための前段の取組みをやったらどうかということ、そういう風なのを開こうということを進めてございます。とにかく昨日ですかね、日曜版の徳島新聞の1面のコラムに内山節さんが書かれてるものがあるんですけども、フランスでは1975年から田舎に都会の人が入り始めて、今では半分以上が都会人だということでもございましたけれども、その動きが日本にも来てますよってことが書かれてました。要は田舎と都会の違いってというのは、やっぱり田舎というのは自分の力で生活していけるような方が入ってきていただいて、自分の役割というのを十分理解して、地域のために貢献して生きていくって、そういう充実感のある生活を送る方が来ていただけるっていう風に捉えてるんですけども、そういう方が来ていただけるように町づくりを進めていきたいなと考えております。要は美しい昔ながらの景観を取り戻すのが1番かなと思っておりますことと、後仕事ですね、仕事を作っていく必要があるかなということ、本当は漁業振興が1番なんですけれども、これも本当に今非常に難しくなってるんで、徳島県さんの力も借りながら、なんとか漁業振興をもう1回巻き返したいなと思っております。で、今年度から牟岐町で輪産制とってアワビの魚礁を沈めてって3年間のクールでそれを採ってこうというような試みも始めてます。どこまで上手くいくかわからないんですけども、徳島県さんそれから国のお力を借りて、進めてまいりたいと思います。よろしく願いいたします。

(美波町長)

いつもお世話になっております。時間もだいぶ押してますけれども、私の方からは町への質問も含めてですけど、E委員さんとF委員さんからの分でもございますけれども、県さんの方からご回答していただいたとおりでありまして、Eさんの分についてはしっかりと頑張っていきますということと、F委員さんの件につきましては本当に地形的に非常に厳しい中で、仮設住宅をどのようにするかってということでご努力されておりました、私共も自主防災会の皆様方と相談しながらってのがあるんですけども、一気に大きな所で仮設住宅を建てる場所を見つけるというのは私共の所では非常に難しいなあっていうところがあって、小規模で多数作るみたいな形でやっていくのがいいんじゃないかと私個人ではちょっと思ってます。益城町を訪問させていただいて、畑を埋め立てて仮設住宅を県さんの方で取りまとめて作られてますけれども、ああいった形で、あそこは丘陵地帯ということである意味羨ましい限りですけども、私共の方はなかなかそうはいかないので先ほどの隣町にもお世話になりながら、ですから阿南市さん、那賀町さんというようなことでお世話になりながら地元でも山間部、中山間地でそういったことができないかなというようなことをまたF会長とともにやらせていただきたいなと思っております。

最後にお願いとご依頼みたいなことになりますけれども、先ほど坂口町長が言っていたいただいた関西ワールドマスターズゲームズですけども、2019年ラグビーの世界大会、2020年がオリン

ピック、2021年がワールドマスターズゲームズということで、3年間続いて日本でスポーツの大会があるということで、今回の関西ワールドマスターズゲームズについては、昨年10月に全部で32種目で55競技が行われるというのが決まりまして、県内で6の種目が行われると。その中の3つが美波町そして那賀町ということになっただけですけども、本当にたくさんの方が来られるということで、今から私共も心配しているところがあります。それは1つには宿泊施設ということで、今日お集まりの県南の4市町はもちろんですけども、皆様方のご協力も得ながら、この4年間でしっかりとおもてなしができるような宿泊を確保するとともに、食べ物でありますとか言葉の壁を乗り越えるようになっていくことで、県ご当局にも色々とお配慮をいただきたいという風に思いますので、お願いを申し上げまして私の話とさせていただきます。

(海陽町長)

今、影治町長さんも言われたように時間が押しておりますけれども、今回、委員さんたくさんの方が意見をいただいております中で、本当に海陽町に関する意見がたくさん寄せられております。DMVが2件、あるいは南海トラフ、きゅうりタウン、海部病院もそうでしょうし、サーフィン、スポーツツーリズム、そういったこともたくさん寄せられております。その中でほとんど県当局の方がご答弁いただいたので特に私の方から新たに付け加えることはございませんが、海部道路については先立って2月15日だったと思いますが、知事さんにお会いしたときに、知事さん奥の手を出していただいたんですかと言ったら、はい、奥の手を出しましたということですので、海部道路もいい方向に向かうのではないかなとそんな思いでおります。

それと先ほどLさんから質問がありました海陽町内でのそろばん塾の件なんですけど、私の子どもは確かに2人ともそろばん塾に通いました。ただ今はもう海陽町内でそろばんを塾をしている先生が高齢になられたりして、おりません。孫は3人おりますけど3人とも通っていない。帰りまして再度そういったことについて教育委員会なり職員にはきいてみますけど、今はないんでないかなと思っております。地域おこし協力隊でやったらどうですかというご意見もありましたけれども、今はその予定はございません。

それと先ほど那賀高校とかあるいは牟岐町には高等学校がありませんというような感じの話が出ておりました。改めて県の方にはお願いしたいなと思うんですが、今日はまあ県の方をお願いする機会でもないんでしょうけども、実は今日の徳新にも出ておりましたけれども、海部高校の定員が多分3桁に届かない、定員じゃない、入学願書、志望者が3桁に届かないんでないかなとそんな思いがしております。郡内に4校あった高校を1校にして、そしてなおかつ厳しい状況であるということでございます。本当に私達、特に海陽町は地元である唯一の高校ですので、本当にこの高校をどないかしなければいけないという思いで必死で取り組んでおります。先立っても教育長さんにお会いして魅力化事業、魅力化のためにお願いをしましてまいりました。今年度、こんなことを言っていたかわかりませんが、今まで町単で300万円の補助金を出してございましたけれども、今年は思い切って1,000万円補助金を出すことにしました。天は自ら助くる者を助くるという言葉がございますけれども、私達も一生懸命努力したいと思いますので、どうぞ県教委の方もお願いできればと思っております。それだけ今本当に危機感を持ってやらなければ大変厳しい状況になっております。どうぞよろしくお願いいたします。以上です。

(副知事)

副知事でございます。各委員の皆様そして首長の皆様本当に長時間、この前も長時間だったと思

ますけど、お付き合いいただきまして大変どうもありがとうございました。今各委員から色々な意見を伺ったところでございます。また各委員には日頃よりそれぞれの分野で活動を繰り広げていただいております。まさに本県の地方創生を後押しする活動にも取り組んでいただいております。大変ありがたく思っているところでございます。そういった中から今日皆様私共の施策の将来の方向性についての貴重なご意見を伺ったという風に受け止めておりました。皆様の意見につきましては本県の施策に反映してまいりたいという風に思っております。全国におきましては東京一極集中の是正、また人口減少の克服といった大きな課題があります。地方創生が大きな課題ということでございますけれども、言葉を変えればこの地方創生は先ほどEさんからもお話ありましたけれど、地域間で最後の生き残りを賭けた争い、最後のチャンスという風に言い換えることができるんじゃないかと思っております。そういった中で本県は地方創生の旗手として、課題解決先進県としてトップランナーを走っているということでございまして、昨年度末に本県におきまして、県及び24市町村で総合戦略、地方創生に係る総合戦略を策定し、今年度は地方創生の本格展開の年という位置付けとなっております。更には来年度、地方創生本格展開を加速させる年ということで、まさに今年度、来年度が大変重要な時期というように捉えているところであります。そういった中でそれぞれ地域の課題解決の処方箋を見つけて全国のモデルとなるようなものを発信をしていく、実践をしていくということでありまして、この南部におきまして、南部ならではの南部モデルを作っていただいております。ここでの成功事例は県内の他の地域、同じ課題で悩む所に広げて、県下全体が地方創生の実現に繋がるようにという風に思っているところでございます。

今日は皆様のお話を聞いてちょっと気付いたところのみお話をさせていただきたいと思っております。皆様の全部のご意見に対応するような形にはなっておりませんが、考え方だけちょっとお示しをしておきますと、1つはそれぞれの課題を解決していくということになりますと、我々が現場主義に立って、現場の目線に立って、現場と意思疎通を図りながら一緒にやっていくということではないかと思っております。Hさんの方から現場との意思疎通というお話がございましたけれども、そういった形で現場との意思疎通を図りながら、施策の効果を最大化していきたいと思っております。

それと規制緩和の話がございました。今回は平時災害シームレスな民泊ということでございますけれども、那賀町ではドローンの話がございますように、できる限り新しい施策については規制の緩和といったものも、これはなかなか国より先に規制緩和するということが安全との裏腹になるものですから、大変難しい問題がありますけれども、県といたしましてはそういったことにチャレンジをしていきたいと思っておりますので、皆様からのそういったご提案をいただきながら検討してまいりたいと思っております。そして地方創生2つの面があると思っておりますが、具体的な成果の部分は移住定住、先ほどEさんの方からもお話ありましたけれども、移住定住の数で成果が表れてしまうということではないかと思っております。その移住定住については、やはり直接頑張っていかなければならないと思っております。一緒になって取り組んでいければと思っております。そしてその移住定住を支えるものとして、やはり安全・安心の問題とか、色々な問題を一緒に合わせてやっていかなければならないと思っております。そういうことでやっていければと思っております。

安全・安心の部分で言えば災害の問題だとか医療、先ほど地域医療のお話ございましたけれども、地域の医療の維持の話、そして出産から子育てまで、そういったところの話も含めてきちっと暮らしの安全・安心を支えることができるようなそういったモデルも合わせて、そういった施策も展開していかなければならないと思っております。

それと観光交流の話がございました。これは先ほど来からラグビーワールドカップ、東京オリンピ

ック・パラリンピック、関西ワールドマスターズゲームズ、3大国際スポーツが3年連続で続くことになります。当然、宿泊の関係だとか道路の関係だとか皆様にご協力をいただかなければいけない部分が多々あるかと思っております。ただその一方で、この3大国際スポーツについては最大限活用して、キャンプ地なり開催地の誘致を進めてまいりたいと思っておりますので、何卒よろしく願いをしたいと思っております。

それとやはり施策を展開するときには皆様方の意見を聞いていくと、先ほどの現場主義の話と同じでございます。本日、若い方々のご意見を聞いたアイデアとか資料で提案させていただいておりますが、先ほどインバウンドで外国人の話をとることがございましたが、できるだけ幅広い方々から意見を聞きながら、施策の展開を取りまとめていきたいと思っております。

それと文化についてはやはり2020年が東京オリンピック・パラリンピックでございますけれども、スポーツの祭典であると同時に文化の祭典という風に言われておまして、これから4年間で20万件の文化プログラムを展開をしていくということとなります。そういった中で阿波文化の4大モチーフ、阿波人形浄瑠璃、阿波踊り、阿波藍そしてベートーベン第9がございますが、先ほど人形浄瑠璃についての話がございました。そういったものもしっかり国内外に発信してまいりたいと思っております。そのときにはやはり次代を担う人達に、きちっとそういったところを承継してもらって、そういった取組みも大変重要だと思っておりますので、そういった取組みもしっかり進めてまいりたいと思っております。

ということでございまして、今日は本当に皆様方から色んな意見を伺いまして大変参考となったところでございまして、これからも皆様方のご意見を踏まえつつ、施策の展開、県政の発展に繋げてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。本日は大変どうもありがとうございました。